

チェロの奥深いの可能性——歌い、響き、紡ぐ
手の届きそうな距離で味わう、絢爛のデュオ!



2025年
4月16日(水)

開場 18:30 / 開演 19:00

入場料:会員4,500円(座席指定可) /

一般5,000円 / 学生2,500円(全席自由席)

Program

ベートーヴェン:チェロ・ソナタ第3番 イ長調 Op.69

ドヴォルザーク:ロンドト短調 Op.94

プーランク:チェロとピアノのためのソナタ FP143

水野 優也
チエロリサイタル

Piano

五十嵐 薫子



©Seiji Okumiya

●ご予約・お問い合わせ 株式会社 ILA (渋谷美竹サロン) 03-6452-6711 (平日10:00-18:00)、070-2168-8484 (時間外可) 公式Webサイト: <https://x.gd/JmEl4>

五十嵐 薫子 (IGARASHI Kaoruko) Piano

2022年ジュネーヴ国際音楽コンクール(スイス)にて、第3位及びRose Marie Huguenin Prizeを受賞。また、日本音楽コンクール、ピティナビアノコンペティション、ショパンコンクールinAsia、日本ショパンコンクール他多数のコンクールで受賞を重ねる。

6歳より桐朋子供のための音楽教室にてピアノを始める。

ソリストとして東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、ヤナーチェクフィルハーモニー管弦楽団(チェコ)他と共に演奏。

これまでに、今泉紀子、山田富士子、村上弦一郎、横山幸雄、岡本美智子の各氏に師事。

2014年桐朋学園特別奨学生、2014~2015年明治安田QOL奨学生、2016年メンデルスゾーン・アカデミー奨学生、2017,2018桐朋学園仙川キャンパス特待生、2018年、2019年度rmf奨学生他。

NHK「クラシック倶楽部」、NHK-FM「リサイタル・パフォーマンス」、「ラボ・オーケストラ」等出演。室内楽ではヴァイオリンでは徳永二男氏、ワディム・レービン氏、チェロでは長谷川陽子氏等著名な音楽家と多数共演している他、2020年には第89回日本音楽コンクールに於いて審査員特別賞を受賞(チェロ部門共演)。

水野 優也 (MIZUNO Yuya) Cello

1998年生まれ。

第89回日本音楽コンクール第1位および岩谷賞(聴衆賞)、黒柳賞、徳永賞、全部門を通じて最も印象的な演奏に対し贈られる増沢賞を受賞。第13回東京音楽コンクール第1位および聴衆賞、2024年エンリコ・マイナルディコンクール第1位、第31回青山音楽賞新人賞など多数受賞。

特待生として桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コース修了。ハンガリー・リスト音楽院にてマイローシュ・ペレーニに師事。

現在、ザルツブルク・モーツアルテウム大学にてクレメンス・ハーゲンに師事。ソリストとして国内外でのオーケストラとの共演や、リサイタル、室内楽公演への出演、アウトリーチ参加など、活発な演奏活動を行っている。ジャバシン・ナショナル・オーケストラのコアメンバー。

2023年、NOVA Recordより「水野優也×反田恭平 コダーイ無伴奏チェロ・ソナタ&ショパン:チェロ・ソナタ」でCDデビュー。同年、オクタヴィア・レコードより高崎芸術劇場でのライヴを収録したCDもリリース。

使用楽器は、故齋藤秀雄氏の愛器だったTestore(1746年製)、弓は住野泰士コレクションよりF.Tourteを貸与されている。



©Yuji Ueno

水野優也 チェロリサイタル

ピアノ 五十嵐薰子 2025年4月16日(水)

開場 18:30/開演 19:00 入場料:会員4,500円(座席指定可)/一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)



「水野優也 × 五十嵐薰子」チェロの奥深い可能性——歌い、響き、紡ぐ 手が届きそうな距離で味わう、絢爛のデュオ!

演奏技術が飛躍的に向上している今、アーティストの個性が埋もれ、没個性化が進んでいるように感じることもある。

チェリストも例外ではなく、現在の日本には、世界的に見てもトップレベルの奏者が何人もいる。

そんななかで、これほど“歌うチェロ”を感じさせる演奏に出会ったのは初めてのことだった。

水野優也のチェロは、ただ柔らかく美しいだけではなく、響きが立体的で、何を歌っているのか、それがよく見えるのだ。

可動域の広さ、表現の幅、そしてチェロが持つ叙情性——そのすべてが彼の演奏にある。

チェロという楽器が、こんなにも華やかで、多彩な表情を持つものだったのかと、改めて感じさせてくれる。

過去の名演とされる演奏を語るときに「リリシズム(叙情性)」という言葉を使うことがあるが、それは平たくいえば「味がある」ということなのだろう。

均一化されすぎているのではないか、と感じられることが多い現代において、「リリシズム」を感じさせてくれる演奏家は、もはや稀少な存在になりつつある。

しかし、水野優也のチェロには確かにそれがある。

「美竹サロン」という制限の無い空間の中で、彼はまさに「チェロの奥深い可能性」を示すようなプログラムを提案してくれている。

まず、ベートーヴェン「チェロ・ソナタ第3番イ長調 Op.69」。

ベートーヴェンらしいモティーフの扱いと、チェロとピアノの対話が、驚くほど洗練された形で展開される。

ドヴォルザーク「ロンドト短調 Op.94」は、民族色豊かな旋律がチェロの歌心を引き立てる佳作。



©Yuji Ueno

そして、ブーランク「チェロとピアノのためのソナタ FP143」。

ブーランク特有の洒脱さとウイットに富んだ旋律が、どこか都会的な空気を醸し出す。

しかし、その裏には、ふとした瞬間に胸を打つ抒情が潜んでいる。

後半は、また違った方向からチェロの表現の可能性を追究する。

リゲティ「無伴奏チェロソナタ」は、現代音楽の中でも特に演奏効果の高い作品。

ここにはリゲティにありがちな「難解さ」はなく、むしろ透明な響きが宇宙的な広がりを感じさせる。

そして、ショパン「チェロ・ソナタ短調 Op.65」。

ショパンの数少ない室内楽作品の中でも、最もロマンティックな楽曲のひとつであり、特に第3楽章のカンタービレは、ショパンの抒情美が極まる瞬間だろう。

そして、このプログラムの真価を引き出す鍵を握るのが、ピアニストの存在だ。

五十嵐薰子のピアノは、まさに“インスピレーション型”といったらよいのか、音楽の流れに鋭敏に反応し、時に情熱的に、時に深く沈み込むように歌う。

彼女のピアノ演奏は、音楽を変幻自在に「彩る」。

水野優也のチェロと五十嵐のピアノが、互いに触発し合いながら、どのような音楽的対話を紡ぎ出すのか、その瞬間に立ち会えること自体が、貴重な体験となるに違いない。

こうした演奏会は、単なる演奏会ではなく、音楽の可能性を探る“ひとときの旅”だ。

(渋谷美竹サロン)



大ホールのプラチナ席をしおぐ
生演奏の醍醐味、
一期一会で味わう圧倒的な臨在感。

日本のトップクラスの演奏家たちが、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。
渋谷美竹サロン(美竹清花さん)が追求する
“本物の音楽”は、演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

渋谷駅 徒歩2分
宮益坂、誕生。クラシック音楽サロン、

大好評につき
サロンメンバーズ
追加募集中!

QRコード

QRコード</p